

PONYTAIL

Zip



4. TYPE



R-90（ろくはナイン・ゼロと読む。厳密にはろくはナイン・すらっしゅぜろ）。0（ZERO）は零、無、もしくはひとにぎり、ほんの少し、そして丸い形を現す。R-9S（R-9改の量産型）のフレームを流用し、新たに、設計されたドットである。ドットのため、ポニーテールの美しさが最もシンプルに分かりやすい所が、AAポニーテールであったR-9改のポニテ構造と大きく異なっている。貫通力を優先させた圧縮型波動砲ユニット、新たに、2種類のフォースデバイスを制御可能なコンダクタユニット、さらに最大の特徴であるハイパードライブシステムを装備している。

全国にふたけたは位はいて欲しい、ろくはナインファンのみなさま、これが今度の、ろくはナイン・ゼロです。今までより全体のバランス、強調的なボディラインがエロティックでいいでしょ。決定までかなり苦しんだようです。細い体にモノすごい火力を秘め、もうすぐデビュー。…あんまり壊さないでやって下さいね。

次元カタパルト

今、空間はグリリ！と回る。1面。68kマジック、オンパレード。



アシド・クリーチャー

放射性消化液の滴る中、闇を穿つ光が飛び散る。ハイパードライブ。



重金属回廊

STAGE 3。圧倒的なエネルギーの奔流が、重金属の回廊を貫く。



作成中

ステージ1のお約束♡、波動砲を撃つロボットも強化。しかも、今回は3体、隊長機まで登場。排莖は、もう当然だ！

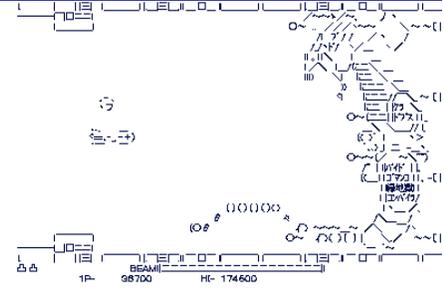
11-TYPE

作成中

10 SECONDS BLAST

それは、未来から来た最悪の因果律。しずかに眠る戦士たちの追憶。

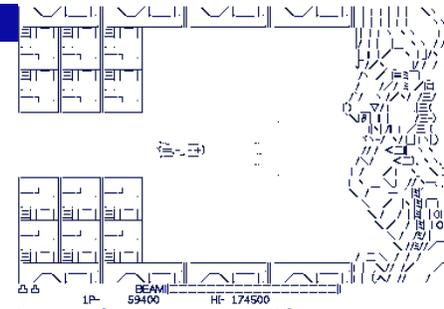
1.



すべてはここから始まった。何百回と見た、印象的なショットのハズである。VSドブケラドプス。

R-9 TO THE FRONT(START)-CONTERATTACK

2.



IIのヤツなら、3秒でケリがつく。仮面の下で、奴は不適に笑ってた。

3.

作成中

12月！攻撃開始！

△168000ソフト(予) ¥6,8000

…もうすぐ、見える。

BLAST OFF AND STRIKE
THE EVIL BYDO EMPIRE!

FREE PLAY

PONYTAIL
1ST OPTION
Z1-TYPE
ILLEGAL MISSION



CONTENTS

2

R-9 IN ACTION

RED ZONE FIGHTER

FROM BEYOND

OVER THE DEAD LINE

TARGETS!

SOMETHING IN THE UNKNOWNSPACE

INTER MISSION

DON'T SAY "GOOD BYE" GO NEXT!!

まけるもんか。

ACT 1



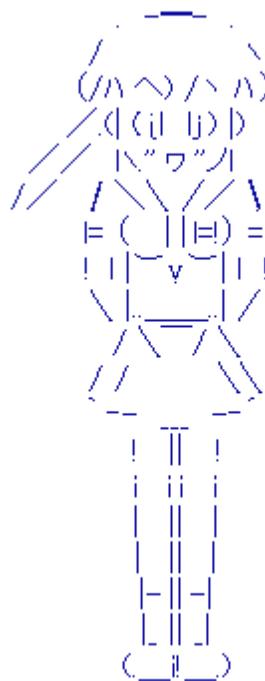
R-9 IN ACTION

RED ZONE FIGHTER

エーテルの波をこえて
星の海を渡っていこう
そこにはあきれほどの
まだ見たことのないものが
ちらばっているはずさ
光を追い越し
時間を跳んで
いつまでも
どこまでも

R9

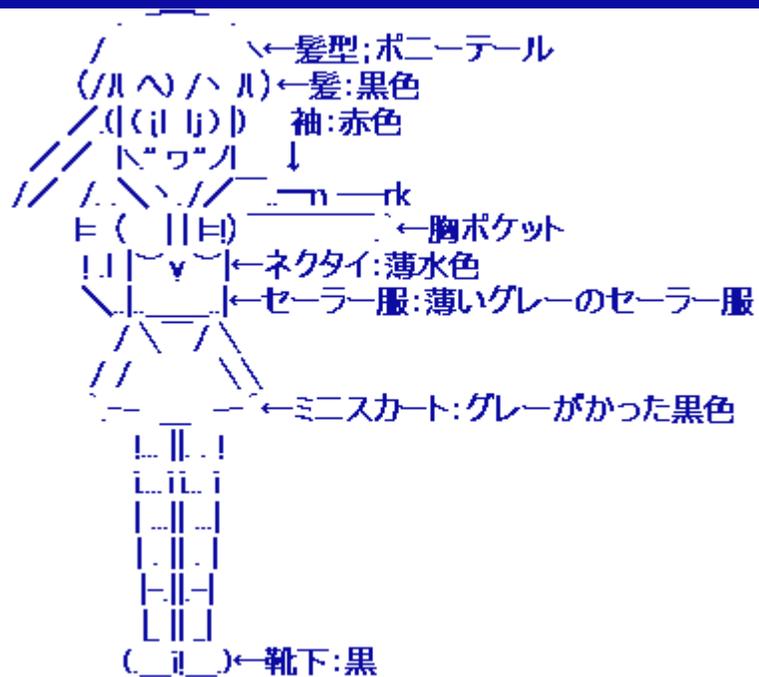
ポニーテールはダテじゃない。



S P E C
 身長:156.8cm
 胸囲:105cm
 胴囲:61cm
 腰囲:82cm
 体重:47.2kg

六葉は元来、アスキーアートだった。さかのぼれば R-90（擬人化）に突き当たる。イラストが描けない作者は、製作経験のあるアスキーアートを使って何かゴーストの開発を試みたのである。アスキーアートによる良好な視覚記号化と、モノクロならではの低容量により様々なアニメパターンを生み、対バイドミッションまでにはその設計思想を受け継ぎ R-5 をかぞえるまで進化していた。異次元（ネット）という人類にとっては未知の領域に存在するというバイド殲滅用モイラスト依頼ではなく、自炊であるアスキーアートが選ばれたのは上記の理由からである。

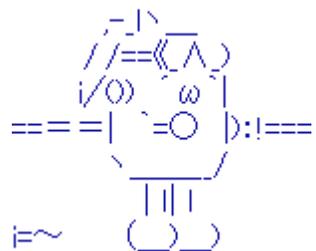
その開発は、考え得る全ての状況に対応できるサバイバビリティの追求と、アスキーアートの設計思想の特徴でもあったオプションユニットによる機能拡大性において、母体にして戦艦並みの火力を持つ“波動砲”ユニットと人類における唯一の次元兵装“フォース”コントロールデバイスの付加に重点をおいて行われた。（悲劇）のテスト機 R-7 を経て R-9 がロールアウトしたのは 2010 年のことであった。



1947	▷	米国ロズウェルにて宇宙生物らしきものを回収、極秘に研究が進められる
197x	▷	汎用多足歩行型作業機械「レイバー（Labor）」が急速に発展・普及
197x	▷	アーカイブコンテナが実用化
198x	▷	宇宙自衛軍設立
198x	▷	宇宙自衛軍、各食品会社に対し新しい宇宙食の開発研究を通達
198x	▷	東亜開発（株）がアーカイブコンテナのシステムを応用し、生鮮食品の長期保存、内容物の超圧縮に成功、重力圧縮装置と命名。
199x	▷	ノストラダムスの予言を信じた一部の集団が、テロ行為を始める。
1999	▷	2000年問題が起きる、それに乗じてテロ集団がバイオ研究所などを襲う、テロ集団はバイオ生物やAI兵器に襲われ全滅した。
2000	▷	バイオ生物やAI兵器、地球の各地へ逃走潜伏。逃走先の国が鎮圧に乗り出す。宇宙自衛軍宇宙空間機動計画。幼体固定プロジェクト発足。
2002	▷	計画名「RX-プロジェクト」リーダーは、ケン・イシカワ博士。細胞コントロールにR3型TYPE-3を搭載。高出力増殖制御に問題。推測停止プログラムを変更。12個の細胞安定用ナノマシンを16個に増設し搭載。
2004	▷	通称スケルトンが完成。その名の通りこの幼固定体者はテスト用のため外部装甲は無くまったく粗末なものであった。
2006	▷	RX-T1を改良。外装を追加し、実用テストのため日本の宇宙ステーション「2ちゃんねる」に試験投入。
2006	▷	RX-T1実用化。正式名称R-1a。名称の頭文字"R"はプロジェクト名から引き継ぎ命名された。
2007	▷	新規格のRX-T2の開発に着手。R-1は様々なマイナーチェンジによりR-1a〜R-1jまで作成された。AAU(アスキーアートユニット)の基礎技術統一化にともないR-1シリーズの製造を中止。R-2(RX-T2ベース)シリーズ実用化。規格化によりAAU一般化する。R-エンジン双発化(RW-3型エンジンTYPE-1)のためR-2シリーズはR-2dまで製造されR-3シリーズに継承される(ユニットはAAU規格により互換性あり)R-3シリーズ実用化。双発エンジンにより高機動化を実現。R-ユニットの掘削作業用低出力カ場解放型波動砲の開発に着手。新理論に基づき開発作業が進められていた異層次元探査艇がロ-ルアウト。異層次元探査艇「フォアランナ」超長距離航行に出航。帰還予定は2009年6月27日。R-エンジンを小型化し外装内におさめる事に成功。低出力小型エンジン(RS-3型エンジンE-UNIT)完成。E-UNIT装備のR-4シリーズ実用化。低出力カ場解放型波動砲完成。特殊作業艇R-5シリーズの開発に着手。探査艇フォアランナ航行座標からの特種生体エネルギー-反応をキャッチ。異層次元でエネルギー-の増殖を確認。低出力波動砲アステロイドバスタ-装備のR-5シリーズ実用化。(波動砲標準装備のため基本的には一般への供給はされなかった)異層次元艇フォアランナ、超束積高エネルギー-生命体「バイドの切れ端」を採取し帰還する。対バイドミッション発令。対バイド兵器は選考の結果、R-シリーズに決定した。R-シリーズ兵器開発のため汎用型の製造はR-5fで中止となる。高出力波動砲装備の無人テスト機(RX-6)開発に着手。

2008	▷	超束積高エネルギー-生命体兵器化計画立案。木星の研究施設で開発が進められる事になった。従来の波動砲にカ場解放ブーストを追加したRX-6がテストに入る。テストの結果、カ場ブーストにエネルギー-を供給する瞬間、カ場に高負荷がかかりエネルギー-のベクトルが不安定になる事が判明。レギュレ-タ-を追加。木星ラボからの通信が途絶える。探査艇「スカイホ-プ」が調査の結果、直径6mの高エネルギー-体「バイドの切れ端」を中心にラボを含む空間が半径3万mにわたり消失しているのを発見。エネルギー-体を採取し帰還する。高出力波動砲装備有人テスト機R-7ロ-ルアウト。超束積高エネルギー-生命体の制御に成功(フォ-ス)
2009	▷	R-7によるフォ-スの実用化試験に失敗。フォ-スを後方に装備し波動砲を使用した所、カ場安定用レギュレ-タ-が異常加熱。エネルギー-の蓄積座標が後方に引っぱられ閃光とともにR-7は蒸発してしまった。エンジンがモナーユニットだったために視覚、絵的記号不足だったのである。フォ-スは無傷で回収された。人工フォ-スの開発に着手(ビット)R-エンジン3型TYPE-4を3基及び大型モナーユニットを2基搭載したテスト機RX-8完成。RX-8波動砲テスト良好。フォ-スの実用化試験完了。RX-8の実用化(R-9)の開発が決定。高出力カ場解放型波動砲完成。R-5シリーズの波動砲から2年経ち最終的に算出された出力デ-タは低出力波動砲の5.7倍にもなった。エネルギー-生命体の人工的実体化に不安定ながらも成功。低出力波動砲装備高機動巡回機「プロトタイプR-9」ロ-ルアウト。ザイオング慣性制御で機装、高出力波動砲を装備し武装強化した「R-9」ロ-ルアウト。★第一次バイドミッションR-9大隊により地球初の異層次元戦闘が行われる。【A-TYPE】★エデン・パラドックスほぼ同時期、平行次元において完成した人工天体"エデン"が暴走を開始。鎮圧のために投入された機体は"R-9(LE0)"(誕生日戦争〜バ-スディ・ウォ-)【A-TYPE LE0】1月パイロットの神経系から直接信号を読み取り機体制御や攻撃を行うサイバ-インターフェイスの対人実験開始。★デモンシ-ド・クライシス地球において何らかの原因により到着した「バイドの種子」により、巨大兵器の暴走事件が発生。鎮圧にあたったのは軍ではなく、民営の武装警察。使用された機体は"R-11"【GALLOP】★サタニック・ラプソディ-同時刻、幾つかの都市で電子制御兵器暴走。要塞に封印されていた殲滅ユニット・モリッツGの地上への投下確認。第一級非常態勢となり、テスト機であるR9 deltaまでもが作戦に駆り出された。【A-TYPE Δ】
2011	▷	★第二次バイドミッション異層次元において再生を始めたバイドの反応を受信。ただちに殲滅に向かう。使用機体はR-9の直系アップ-バ-ジョン「R-9カスタム」。【ΔI-TYPE II】
2012	▷	バイド太陽系戦線。太陽系外周においてバイド攻撃体が確認される。最新鋭"R-9S"が応戦するも全滅…。
2013	▷	★第三次バイドミッションR-9カスタム直系アップ-バ-ジョン"R-90(ゼロ)"ロ-ルアウト。OPRETION CODE-THIRD LIGHTNING 発動。【ΔI-TYPE III】
2014	▷	

フューチャーパブリケーション発行「R's History」より抜粋



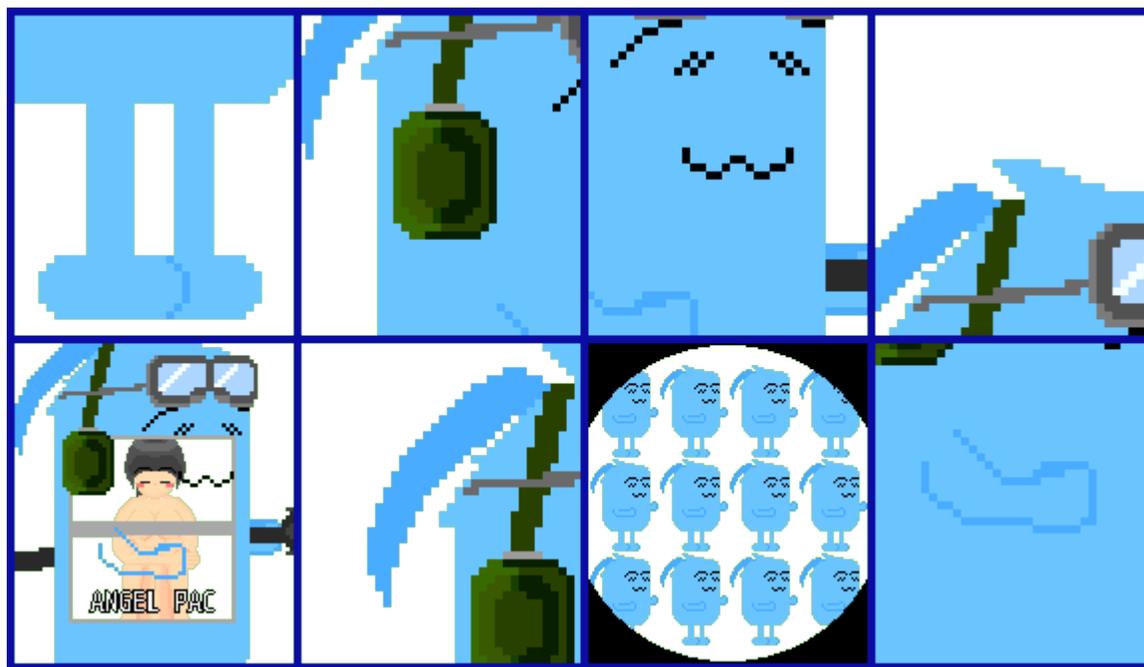
SPEC	SPEC
身長:106.8cm	身長:154.2cm
胸囲:88cm	胸囲:86cm
胴囲:88cm	胴囲:58cm
腰囲:88cm	腰囲:80cm
体重:20.0kg	体重:45.2kg

サブスラスタ

ビットコンダクター

エアインテーク (大気圏内用)

マルチセンサー



パイロットユニット

放熱アウトレット

マイクロマシン

バーニアアーム

似て非なるもの

急ごしらえのR-9と違い、R-9カスタムは始めから異次元戦闘艇として開発が進められた。その結果ロールアウトした機体は、作業艇と戦闘艇といった違いにとどまらず形こそ似ているものの、その突き抜けたポニーテールと破壊力はまさに化け物と呼べる代物であった。

全自動工房で生産されたR-9と異なり、R-9カスタムは技術職人の手による手作りで、ほとんどワンオフモデルの精密さと完成度を備え、それゆえに機しか製造されなかった。

R-9カスタムは、シンボルとしてのRシリーズの形状を残しつつも、一回り小さな機体となっている。

第一次バインドミッションの戦闘データを基にアビオニクス系が強化され、FCSも最新の学習型に換装、ジェネレーターの高出力化にともない、拡散波動砲を始めとする4つの新兵装を備えるに至った。それはパイロット1名での運用を可能にし、コクピットスペースの余剰分に器材を搭載することによって、実現したものである。

更にライフサポートシステムの高密度化と装甲キャノピー、脱出用分離式コクピットシエルによってパイロットの生存率は格段に上げられた。(しかしこれは戦闘データ回収を第一目的としたものであり、パイロットは圧縮装置に入り、ダイレクトリンクシステムに直結した生体コンピュータユニットとして組込まれていたのが実際であった。無論これは極秘事項である)

機体内への異物の侵入を防ぐ為、外装のシームレス化とユニットのパッケージ化が進められ、それに伴ってメンテナンス性は向上し、ユニット毎の信頼性も高まった。更に初歩的なものしか過ぎないが、有機生体部品による自己修復機能も付加されている。

小型・軽量化・シームレス化を可能に出来たのは、外装材に爆発成型による繊維強化焼結細胞部品を多用できたことによる。

カラーリングは、装甲キャノピーと共にウルトラマリン。

